

ニカラグアがドイツを国際司法裁判所 (ICJ) に提訴

ニカラグア国民和解団結政府の声明

2024年3月1日 プレスリリース

国民和解団結政府は、本日、ドイツ連邦共和国に対し、パレスチナ占領地（特にガザ地区）に関するジェノサイド犯罪の防止及び処罰に関する条約、1949年の諸ジュネーブ条約及びその追加議定書、国際人道法の侵すべからざる原則、その他一般国際法の明白な規範に対する違反について、国際司法裁判所に提訴したことを、ニカラグア国民及び国際社会に通告する。

現在までに、約 230 万人の人口のうち、少なくとも 29,782 人のパレスチナ人がガザで殺害され、70,043 人が負傷した。さらに、ガザだけで 10 万人以上が死亡、負傷、行方不明となり、170 万人が強制的に避難させられている。その大半は現在、世界最大の難民キャンプとなっているラファにいる。

残虐行為が発生したときの、すべての公開された報道や映像、公式の国際的な当局者の宣言や 2024 年 1 月 26 日の裁判所命令がある以上、ドイツは、イスラエルの行為の重大な違法性を知っていることを否定することはできない。また、ジェノサイドを避けること、援助や支援を提供しないこと、あるいはジェノサイドの共犯者となること、並びに、違法なアパルトヘイト体制やパレスチナ人の自決権の否定を阻止することなど、国際人道法やその他の国際法の厳格な規範の尊重を保障する義務がドイツに生じたことを否定することもできない。

ドイツは、イスラエルに対し、その認可の時点で、軍事装備が重大な国際法違反の遂行に使用されることを知りながら、政治的、金融的、軍事的支援を提供

してきた。ドイツ政府はまた、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）への援助を打ち切った。UNRWAは、占領下のパレスチナ自治区に援助を提供する主要機関であり、国連は、現時点では他の機関に代替できないことを確認している。ドイツが、国連パレスチナ難民救済事業（UNRWA）への資金提供を停止するという決定が、現実的には数百万人のパレスチナ人、特にガザ地区住民に集団的懲罰を与えることを意味し、もしUNRWAがその活動を停止すれば、飢餓、餓死、疾病に苦しむことになることを、ドイツは、完全に知っている。

このような状況に照らして、ニカラグアは、2024年2月2日、ドイツ政府に対し、イスラエルへの武器、弾薬、技術、部品の供給を直ちに停止し、国際法上の義務を再認識するよう求める文書を送付した。ニカラグアは、また、ドイツがUNRWAへの資金供給を停止することを決定したことも非難した。残念ながら、不法行為に使用される可能性のある軍事兵器やその他の援助の提供は停止されていないし、減少もしていない。それは、実際は増加しており、現在では、UNRWAが、資金の不足から、間もなくその活動を停止するという迫り来る見通しと結びついている。

ドイツは、その義務を引き続き無視し、イスラエルによる国際法の侵害を引き続き積極的に助長し、パレスチナ人、特にガザの人々、そして国際社会に深刻かつ直接的な不利益を与えている。

ニカラグアは、これらの基本的な国際文書と国際慣習法の尊重を保障する国際法上の義務に従い、本決定を採択する。

和解・国民統合政府は、国際レベルでの法の支配と国家間の紛争の平和的解決に対する確固たる約束を再確認する。

マナグア、2024年3月1日

(新藤通弘訳)